



地域ボランティア プログラム

「竹林整備 & 事後学習」

報告

2018/02/15

地域ボランティアプログラム「竹林整備 & 事後学習」

・午前：竹林整備

2月15日（木）の午前中、南大沢キャンパス内にある松木日向緑地にて、今年度最後の地域ボランティアプログラムの活動として竹林整備を行い、8人の学生が参加しました。これまで都合が合わず、初めて竹の間伐を行った学生もいましたが、ひなた緑地遊学会（以下、遊学会と言う）の方からご指導いただきながら活動を行いました。経験を重ねてきた他のメンバーは、それぞれペアになって間伐を行いましたが、随分慣れてきた様子で、切るスピードも速くなりました。

今年度は、活動日に雨が降ることが多く、活動の時期が後半に集中してしまいましたが、経験のある2年目のサポーターを中心に、学生同士で学び合い、サポートし合う場面が増えたと感じます。また、竹林もかなり太陽の光が入るようになり、明るくなりました。遊学会代表の北出さんによると、1年の竹林整備の成果は、タケノコ掘りのときに最も感じるとのこと。今から楽しみにしたいと思います。

・午後：事後学習

午後は、教室に入り、「事後学習」を実施しました。この事後学習は、今年度の地域ボランティアプログラムの活動がすべて終了した後、これまでの活動を振り返り、他のメンバーと共有することで、自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えることで、活動を学びと成長につなげることを目的に行いました。連携団体である遊学会の方や本プログラムのアドバイザーである加藤英寿先生にもお越しいただき、共に振り返りを行いました。

・「ココロ（キモチ）」の振り返り

最初は、「ココロ（キモチ）」の振り返りとして、感情面の振り返りを行いました。活動の中で、“最も感情が動いた場面”をまずは各自で考え、その後、グループで共有しました。“最も感情が動いた場面”として、「竹の間伐を行ったことで、太陽の光が入り、竹林が明るくなるなど、目に見える成果があったとき」「水鉄砲は自分たち大人も楽しめた」などの場面が挙げられました。ま

た、2年目のサポーターからは、「1年目の人の成長を感じたときに自分も嬉しかった」という意見があり、サポーターならではの達成感を感じたようです。また、「竹が切れるときの危険に対する恐怖」や「竹林整備はハードだった」など、ネガティブな感情をもった場面も挙げられました。活動を振り返り、ポジティブな感情もネガティブな感情も両方の観点から、自分自身の気持ちと向き合うことができたようです。

・「アタマ」の振り返り

次に、「アタマ」の振り返りとして、今回取り組んだボランティア活動の効果・意義について各自で考え、その後、グループで共有しました。そして、そこで挙げられた効果・意義を①ボランティア自身、②課題の当事者・活動の対象、③活動する組織、④地域・社会、といった対象別に分けて可視化しました。

<①ボランティア自身にとって>

- ・ 里山やその保全について知るきっかけになった
- ・ 竹を切る方法など、自然に対する知識や技術が身についた
- ・ 自然の魅力や恩恵を実感した
- ・ 様々な人に出会うことができ、視野が広がった
- ・ 身体を動かすことで、腕力・体力が向上し、健康になった

<②活動の対象（緑地）にとって>

- ・ 竹林が整備されることにより、環境が改善し、生態系が維持される
- ・ 森林（竹林）のバランスが是正される
- ・ 緑地と竹が有効活用される

<③活動する組織（連携団体である遊学会や首都大）にとって>

- ・ 技術の継承ができる
- ・ 焼き芋やBBQなどを異世代で楽しむことができた
- ・ 予算の軽減など首都大の管理業務への貢献
- ・ 首都大のPRになり、首都大の株を上げることができる

- ・ 活動を続けることで、他の学生や地域の人にも知ってもらうことができる

<④地域・社会にとって>

- ・ 竹を切る意味を地域の人たちと考えることで、人と自然のあり方を考えることができ、里山を取り戻すことができる
- ・ 子どもの寄り添いができるなど多世代間での地域交流が促進される

・参加学生の声

「事後学習」全体を通して、参加した学生からは、下記のような感想が聞かれました。

- ・ これまで活動してきたことを丁寧に振り返って、感じたことや得られたこと、今後の課題を再確認することができ、理解を深い次元にまで深められたと感じた
- ・ 活動中は、活動の効果や意義はあまり意識していなかったため、改めて考えることができて良かった。また、自分自身の成長という観点では効果・意義を見出していなかったが、他の人の意見を聞いて、その点もあると思った
- ・ ボランティア活動を通して、里山の保全だけでなく、多世代交流の楽しさを知ることができた

学生たちは、振り返りのプロセスを通して、多角的な視点から、この活動やボランティア活動そのものについても学ぶことができたようです。

今年度の活動は、これで終了になりますが、希望者は、2年目は「サポーター」、3年目は「リーダー」として、次年度も継続することができ。また、4月にはタケノコ掘りがあります。どのような形でいいので、それぞれが今回、学んだことをそれぞれのフィールドで活かしてほしいと願っています。

